

第6回福光地域学校統合検討委員会 次第

日時：令和7年10月14日（火）19時00分

場所：南砺市役所 別館3階大ホール

1 開会

2 委員長挨拶

3 第5回検討委員会（令和7年8月6日）議事録について

資料1

4 報告事項

（1）福光南部小学校を令和9年度に先行統合することに対してのご意見について

5 協議事項

（1）統合小学校と統合中学校の使用する校舎について

事前送付資料・別紙

- ・各団体の意見について
- ・意見交換

6 次回委員会の日程

第7回検討委員会

・日 時：令和7年 月 日 19時～

・場 所：南砺市役所 別館3階大ホール

7 副委員長挨拶

資料 1

第5回福光地域学校統合検討委員会（会議記録）

【日時】令和7年8月6日（水）開会：午後7時00分 閉会：午後8時00分

【場所】南砺市役所 別館3階大ホール

【出席委員】	齋藤 史朗	委員長	得能 金市	副委員長	北島 清	委員
	高瀬 須美夫	委員	中田 健一	委員	上野 幸生	委員
	渡辺 史男	委員	高田 寧	委員	嶋 潤之介	委員
	吉野 弥生	委員	福田 向志	委員	福田 智恵	委員
	戸成 博宣	委員	船藤 幸輔	委員	館 英二	委員
	久惠 文子	委員	酒井 由美子	委員	水口 賢	委員
	谷村 恵子	委員	片岸 亮	委員代理（片岸 梨香 委員）		

【欠席委員】天池 哲忠 委員 坂本 博昭 委員

【事務局員】	教育長	松本 謙一	教育部長	氏家 智伸
	教育総務課長	上野 容男		
	教育総務課副参事	山本 佳和	教育総務課主幹	小谷 篤史
	教育総務課副主幹	青能 順子	教育総務課主任	井上 健

【会議要点】

- 1 開会
- 2 委員長挨拶 齋藤委員長
- 3 第4回検討委員会（令和7年6月17日）議事録について
- 4 協議事項
 - (1) 小学校の統合パターンについて
 - ・小学校の数を1校にすることを確認した。
- 5 その他
 - ・事務局で使用する校舎の違いをまとめた資料を作成し、8月末に委員に送付する。
 - ・送付された資料をもとに、各団体で使用する校舎について協議いただき、第6回検討委員会で各団体のご意見をご報告いただく。
 - ・福光南部小学校を先行で統合することに対し、第6回検討委員会で南部校区の関係者のご意見を伺う。
- 6 副委員長挨拶 得能副委員長
- 7 次回委員会の日程 令和7年10月中を予定

【会議記録詳細】

1 開会

2 委員長挨拶

(委員長)

私はかつて城端中学校に勤務していましたが、当時の城端中学校には、一学年に200人以上いて、新校舎ができたときには、一つの教室に45人もいる状況でした。それが、今となっては、単級の発生が見込まれる状況になっています。そして、福光地域の子どもたちも、30年ほど前は一学年に300人ほどいたわけですが、30年、40年経ち、今の状況になっています。

大きく環境が変わるのは嫌だという子どももいるかもしれません。もちろん、今の子どものが最優先ですが、我々は、10年後、20年後、30年後を見通しながら、この学校統合がどうあるべきなのかを考えないといけないと思います。

小規模校が必ずしもだめだということは一概には言えませんが、ある程度の規模がないと、子どもたちの選択肢や、触れ合う機会の場が減りますので、やはり、適正な規模は必要になります。それらのことを踏まえ、本日は検討を更に進めていこうと思います。

3 第4回検討委員会（令和7年6月17日）議事録について

(事務局)

- 資料1に沿って説明 -

(委員)

意見なし

4 協議事項

(1) 小学校の統合パターンについて

(委員長)

それでは、小学校の統合パターンについて、それぞれの団体のご意見を、順番に発表いただきます。

前回までの検討委員会で意見を述べられた団体については、資料2に記載しておりますので、意見の変更がなければ、変更なしということで結構です。もし、前回から意見が変わったり、あるいは、付け足しがあるという場合は、この場で言ってもらわればと思います。また、小学校と中学校の児童生徒の意見については、小学校はO委員が、中学校はP委員が、それぞれ代表して発表をお願いします。

それでは、福光東部小学校教育後援会からお願ひします。

(副委員長)

前回までの話合いについて報告すると、福光南部小学校の統合は、令和10年よりも早くしなくてはならないのではないか、そして、それが最初に解決すべき問題ではないかという話がありました。

また、どの校舎を残すのかという話もありました。建築時期や耐震性能、建物の規模も違います。細かい部分は難しいところですが、福光東部小学校教育後援会でも考えています。

集約した意見としては、「学校の取り合いでなく、地震や自然災害も多いので、大事な子どもたちのことを考え、安全な所で学校を運営していただきたい」ということです。

(委員長)

小学校の数についてのご意見はいかがでしょうか。

(副委員長)

小学校の数については、今のところ、はっきりとした意見は出ていません。検討状況によつては2校とも残す必要があるという意見や、最初から1校にすべきという意見も出ました。今後も色々な考え方や意見が出てくるだろうという話です。

(委員長)

小学校の数について、意見が固まったというわけではないということですね。

(副委員長)

そうです。ただ、「二度手間になるので、できれば1校にする」という意見が多かったです。

(委員長)

福光中部小学校教育後援会、お願いします。

(委員A)

PTAや福光地域づくり協議会全体の意見として、小学校は1校にするという意見が出ていますが、我々はそれに対して反対しているものではありません。

ただ、当局にいくつか検討していただきたいことがあります。まず、仮に、小学校が1校になった場合は、特別支援学級を考慮した教室数を確保いただきたいということです。もし、教室数の関係から、無理やり特別支援学級数を少なくするようなことがあるならば、子どもへのきめ細やかな教育ができなくなると感じています。

また、中部小学校で放課後児童クラブが行われていますが、希望者が多く、今でさえ、全員が希望どおりに放課後児童クラブに入れない状況です。それが、小学校が1校になってしまふと、ますます入れなくなる子どもが増えるのではないかと心配しています。放課後児童クラブの収量能力についても、考えていただきたいです。

もう一つは、児童館についてです。福光地域にはきつずらんどがありますが、かねてから、「使いにくい」、「利用しにくい」、「場所が悪く、学校が終わってから高学年に行くのに移動しにくい」といった色々な不満を聞いてきました。小学校が1校になるのであれば、今のきつずらんどではなく、統合先の小学校の近くにきつずらんどを再整備いただき、学校が終わってからすぐにきつずらんどに移動できるようにしていただきたいです。

いくつか要望を申し上げましたが、このようなことをクリアしていくという条件で、統合の検討を進めていただきたいと思います。

(委員長)

福光南部小学校教育後援会、お願いします。

(委員B)

小学校は1校ということで、意見は変わっていません。

(委員長)

福光中部小学校PTA、お願いいたします。

(委員C)

小学校、中学校ともに統合時期が示されたので、中部小学校では7月18日にPTAの役員会を開催し、再度、小学校の統合パターンについて意見の取りまとめを行いました。

意見が割れている状況であり、通学に対する懸念から小学校2校を提言していました。しかし、前回の検討委員会で、通学に対しての安全確保や、手厚いスクールバスでの対応をしていただけたとありましたので、中部小学校PTAとしては、小学校1校とします。

(委員長)

福光南部小学校育成会、お願いします。

(委員D)

以前アンケートを実施したとおり、今のところ、小学校1校で変更ありません。

(委員長)

福光東部小学校育友会、お願いします。

(委員E)

小学校1校のまま、変わっていません。

(委員長)

福光中学校PTA、お願いします。

(委員F)

PTAの執行部会でこの話をしたところ、だいたい半々で意見が割れました。小学校1校の場合は、「どんどん人口が減っているので、早く1校にしたほうがよい」という意見でした。小学校2校の場合は、「スピード感や費用面を踏まえ、まずは小学校2校ではないか」という意見が出ました。

中学校のPTAの意見としてどちらかにすべきかと言われると、どちらの意見もあるということで、明確には言えません。あくまで、私個人の意見になりますが、小学校2校の場合は、南部小学校の子どもたちが別れることがない形で統合していただければと思います。

(委員長)

小学校の数については、どちらとも言えないということですね。福光どんぐり保育園父母の会、お願いします。

(委員G)

福光どんぐり保育園では、明確な答えを出したわけではありません。

ただ、少し踏み込んだものになりますが、「中学校が1校になるのであれば、部活動のことを考慮すると、体育館施設が整っている福光校区のほうがよいのでは」という意見や、「福光校区側に小学校と中学校が1校ずつとなれば、スクールバスも1路線となり、運営しやすいのでは」という意見もありました。

(委員長)

どこに校舎を置くかについては次の検討事項になりますが、小学校の数については1校だという意見でしょうか。

(委員G)

1校で仕方ないという意見です。今後単級になると、クラス替えができなくなることや、いじめといったことも含め、児童が少なくなるとそのような問題も出てくるから仕方ないということで、小学校1校のほうが多いという感じです。

(委員長)

福光南部あおぞら保育園父母会、お願いします。

(委員H)

前回の検討委員会で頂いた学校統合検討案の資料を保護者に見ていただき、アンケートを実施しました。

14世帯から回答があり、その結果、約8割の11世帯が小学校1校を希望されていました。意見としては、「少子化によっていずれ小学校が1校になる可能性があるならば、今回の統合で1校にすべき」という意見が多く、また、「小学校2校の場合、南部小学校区は保育園の同級生と別れて進学するため、みんな同じ学校に通えたほうが、子どもがさみしい思いをしなくて済むのではないか」という意見も多く聞かれました。

一方、約2割の3世帯が小学校2校を希望され、「自宅から通いやすい」、「目の届きやすい教育ができる」といった意見がありましたが、南部あおぞら保育園父母会の意見としては、小学校1校を希望しています。

(委員長)

福光東部かがやき保育園父母の会、お願いします。

(委員I)

アンケートを取り、51世帯から回答がありました。結果、小学校1校は22世帯、小学校2校が26世帯、どちらとも言えないが3世帯でした。

色々な意見をいただきましたが、小学校1校の意見としては、「児童数が多いということは、その分だけ色々な人との関わりが持てるからよいのでは」、「少子化が進み、いずれ1校になるなら、今のうちに1校に統合したほうがよいのでは」というものがありました。小学校2校の意見としては、「小学校低学年は、まだ近いところに通えたほうがいい」というものや、「先生に一人ひとりの児童をしっかりと見てほしい」というものが多くありました。

また、スクールバスでの移動であっても、通学距離が長くなれば、その分だけ朝早くに準備することが増え、保護者の負担が増えるので、「もし、小学校1校になったとしても、通学に関しては今までどおり、あまり変わらないようにしていただけるのがありがたい」という意見も多かったです。

(委員長)

小学校の数についての意見は、大きく見て半々だということですね。

(委員I)

はい。ただ、「少子化だから小学校1校で仕方ない」という意見や、「まだ1クラスを維持できるのであれば、2校でもよいのでは」という意見もありました。「できれば小学校2校にしたいが、意見としては小学校1校を選択」といったものもありました。

(委員長)

福光青葉幼稚園保護者会、お願いします。

(委員 J)

再びアンケートを取りました。前回は小学校1校のほうが多いという結果でしたが、今回は、回答があった29世帯のうち、小学校1校を希望しているのが12世帯、小学校2校を希望しているのが16世帯、どちらともいえないが1世帯で、小学校2校を希望される世帯が少し多くなりました。

小学校1校を希望される方は、「いずれ人数が減ってしまって将来的に1校にしなければならないときが来るのであれば、最初から1校にしたい」という方が5名、「クラス替えがあったほうが人間関係が固定せずに、6年間過ごしやすいと考える」という方が2名いました。

一方で、小学校2校を希望される方は、おそらく、中学校が1校になることが決まったことを受けたのか、「中学校が1校になるのであれば、小学校は2校にして、少しでも少人数でしっかりと子どものことを見てもらいたい」という意見があったのと、「小学校は少人数で丁寧に手厚く見てもらいたい時期である」という意見も2名からありました。このような意見を持つ方が増えた結果、小学校2校を希望される方が若干増えたのではないかと考えます。

(委員長)

喜志麻保育園父母の会、お願いします。

(委員 R)

前回の検討委員会で報告したアンケートの結果のままで。付け加えるとすれば、どちらとも言えないが8世帯ありました。アンケートの結果は、小学校1校が14世帯、小学校2校が11世帯、どちらとも言えないが8世帯です。

意見としては、前回の検討委員会で申し上げたとおりで、「費用面に鑑み、小学校を2校残したところで、いつかまた統合の話が出るので、市の財政を不必要に圧迫する必要がないから早く統合を実現させてほしい」や、「交通インフラの整備がないと成立しないので、このようなことも考えてほしい」といったものがありました。

今回の学校統合の検討に当たっては、費用面を考慮せずに話し合っていますが、現実として、各個人の判断の過程には、費用面などを考慮していると思われます。この検討委員会の議題ではないですが、次の段階の設置協議会で真剣に取り組んでいただきたいと思います。

(委員長)

福光地域づくり協議会、お願いします。

(委員 K)

第3回検討委員会に向けての会合、第4回検討委員会に向けての会合をそれぞれ行いました結果、小学校1校のままで変更ありません。

(委員長)

南砺市商工会福光支部青年部、お願いします。

(委員 L)

商工会福光支部青年部では、福光支部の全部員に対して資料を配付して意見を求めました。意見を求めましたが、意見の提出がなかったので、7月の役員会で、学校数に対する意見を議題に挙げて話し合った結果、小学校1校でした。

この先の話になると思いますが、「どの学校を残すか」、「どこをどのように利用するか」ということに対する要望になりますが、しっかりとした調査、検証などをしない言いようがないというところであり、そのような意見もありました。また、以前もお伝えしましたが、

今回の学校統合に当たり、地域を盛り上げていくことや、そのご協力に関しては、引き続き尽力させていただければと思っています。

(委員長)

福光スポーツ協会、お願いします。

(委員M)

変わらず小学校1校で、小学校は福光校区、中学校は吉江校区ということでまとまります。

(委員長)

南砺市文化協会福光支部、お願いします。

(事務局)

本日欠席です。小学校1校で、変更はないということです。

(委員長)

南砺市主任児童委員、お願いします。

(委員N)

どちらの案も、よい面と問題点があると思います。南砺市のほかの地域では、かなり前に小学校1校に統合されていますが、遠くから通学している子どもたちのためのスクールバスの運行などの対策もしっかりとされており、学校運営も充実しているように思われます。

福光地域には、各小学校区に1人ずつ、計3人の主任児童委員がいますが、その3人のなかでは、小学校1校のほうがよいのではないかと話していました。

(委員長)

それぞれの団体からご意見をお聞きしました。最後になりますが、児童生徒の意見ということで、参考にお聞きしたいと思います。まず、小学校からお願いします。

(委員O)

福光中部小学校、福光南部小学校、福光東部小学校3校を代表し、子どもたちの声をお伝えしたいと思います。

小学生なので、「何を根拠に判断すればよいのか」という点が難しかったというのが、正直なところでした。ただ、ざっくりとした結論としては、1校がよいと感じた子どものほうが多い印象です。なかには、「分からぬ」、「わからない」という声もありました。

小学生には、「小学校が1校になったらどんなことが楽しみか、どんなことが心配か」という形の尋ね方で聞いてみました。楽しみなこととして、「たくさん友達ができる」、「幼稚園で一緒にいたのに、小学校に入学するときに別れてしまった友達とまた会えるのが楽しみ」、「もう別れなくてよい」ということが嬉しい」といったことや、「スポーツ少年団で一緒に活動しているほかの小学校の友だちと同じ学校になれるのが楽しみ」、「クラス替えはあったほうがよいと思う」や、「中学校で1つになるのであれば、最初から小学校も1つのほうがよいのでは」というような声がありました。

逆に、小学校が1校になったら心配なこととしては、「人数が多くなるので、新しい友だちと仲良くなれるのかが心配」、「人数が多くなることで知らない人が増えるから、覚えられるか心配」、「喧嘩が多くなるのではないか」、「学校が狭く感じるのではないか」といったものがありました。

また、「小学校が2校になったら」というニュアンスだと思いますが、「もし今の自分が友だちと別れなければいけなくなるとしたら、それは嫌だ」という声や、「いつか別れるということがあるのだとすれば、もうそれなら1校がよい」という声もありました。

(委員長)

続けて、中学校の意見をお願いします。

(委員P)

それぞれの中学校で、7月の中下旬に、各ホームルームの時間のなかで生徒に対して質問しました。全部で300人ほどになります。

小学校が1校又は2校になることに対してですが、「特にない」という意見がほとんどでした。意見を書いてくれた生徒のなかで、小学校は1校になったほうがよいという生徒は2人だけでした。一方、小学校は2校がよいという意見は10人ほどいました。福光中学校・吉江中学校とともに、統合することにより、通学距離が長くなるということがすごく心配だという意見が非常に多かったです。

また、「校舎については、新しい校舎をなるべく使っていけばよいのでは」、「1校になることにより、いじめ問題などのトラブルが増えるのではないか」という意見もありました。ほかにもいくつかの意見がありましたが、小学校の数に対する中学生の主な意見は、このようなものでした。

(委員長)

ひととおりお聞きしたわけですが、これらをもとに協議を進めていきたいと思います。それぞれの団体からのご意見をお聞きし、何か発言されたい方がいらっしゃいましたらお願ひします。

(委員C)

子どもの意見に関連しますが、先月、たまたま東部小学校・中部小学校・南部小学校の6年生の子と一緒にになる機会がありました。やはり、気になっているのか、その子どもたちが「小学校はどうなったのか?」と聞いてきました。

その話のなかで、南部小学校の6年生の子が、「僕は小学校は1校がいいと思う。だって、友だちが多いほうがよいから」と、言ったんですね。今まで、多くの保護者の色々な意見を聞いてきましたが、正直、この一言が一番心に残りました。

(委員長)

数からすれば、小学校1校が圧倒的に多いわけですが、みなさんいかがでしょうか。

今後の個別の検討課題として、先ほどから盛んに出てる施設設備や、通学支援などがあるので、それに向けて今回意見を出していただいてもかまわないと思います。今、言っておきたいがあれば、お願いします。

(委員J)

私も中部小学校と東部小学校の子どもたちと話をする機会があり、最近、「小学校が統合する話をどう思っているのか?」ということを、個人的に話してみたことがあります。

その子どもたちは、「自分の校区、自分の家の近くの学校がいいに決まっている」と言っていました。子どもが、自分が家から通れる近くの学校をすごく愛していること、親しみを持っているということを感じられた瞬間で、子どもたちにとって、自分の学校がなくなってしまうということは、やはり悲しいことであるということを感じました。

本当に少人数の子どもたちの意見ですが、その意見を聞き、私個人としては、統合を急がなくてもよいのかなとも考えました。いずれ1校にするのであれば、早い段階で1校にしてしまったほうがよいという意見もたくさんあるなかで、「それは本当に子どものためを思った選択なのか、もしかしたら大人の都合なのではないか」と考えました。

(委員R)

親からすると、我が子が主役である姿を見たいので、小学校2校の「一人ひとりにスポットが当たる」という点に共感し、どちらかというと小学校2校に賛成という意見があります。しかし、これは親の意見です。子どもの意見ではありません。子どもがどう思っているのかについては、やはり私も気になったので、自分の小学生の子どもたちに聞いてみましたが、子どもたちはどちらがよいという明確な答えは持っていませんでした。

私も東部小学校と吉江中学校を卒業し、地元愛を持っていると自負していますが、かといって、母校がなくなることに対し、そこまで悲しみがあるかと言われると、そうでもないような気がします。実際に統合してからでないと、分からないと感じています。

(委員長)

ひととおりご意見が出尽くしたように思います。当事者の子どもたちでも意見が分かれていますが、学校統合に当たり、クリアしなければならない課題等については、今後また検討していくことで、結論を出したいと思います。

全会一致でというのはなかなか難しいですが、お聞きしたご意見を踏まえると、小学校1校・中学校1校で学校統合を進めていくことになると思いますが、よろしいでしょうか。

(委員)

—了承—

(教育長)

ありがとうございました。

さて、令和10年に小学校を1校にするという方向ですが、先ほど副委員長から、福光東部小学校教育後援会のなかで、南部小学校の統合は少しでも早いほうがよいのではないかというご意見があつたというお話をありました。

現時点で使用する校舎は決まっていませんが、それが令和8年3月までに決まれば、南部小学校が、1年前倒しで校舎を使用するほうの小学校に行くことは、教育委員会として対応可能だと考えています。令和9年度に、校舎を使用するほうの小学校に先に行き、少し大きい集団の中で慣れ、令和10年度に1つの小学校に統合するという形です。

ただ、これについては、今この場で決めることではなく、もちろん、南部小学校のPTAのみなさんや、南部校区のみなさんの合意が重要です。当事者である地域の方のご意見をお聞きの上、もし、南部小学校の統合時期を前倒しすべきだというご意見でしたら、対応は可能です。先ほどの南部小学校に対するご意見をお聞きし、付け加えて提案させてもらいました。

(委員長)

「令和10年にいっぺんに3校が統合する形」にするのか、あるいは、「南部小学校だけ1年早く、令和9年に、一つになる予定の小学校に行く形」にするかということですね。

南部校区でそれに対するご意見をお聞きいただき、まとめていただければ、次回の検討委員会でご意見をお聞きするということでよろしいでしょうか。

(副委員長)

私のところの3校下の会長のみなさんと話したときに、丁寧に進めるときは、準備段階を経験することが一番大事なことではないかという話がありましたし、南部小学校の統合を前倒しさせる話も出ました。当局は大変ですが、ここは避けて通れないところだと思います。

(教育長)

令和9年に小学校3校を同時に統合することは難しいですが。

(副委員長)

そのほうがタイムロスもないですし、準備も十分にできるのではないかというのが、私たちの意見です。

通学路などに関しては、具体的な話がたくさん出てきます。大事な話なので、今、我々がしっかりと意思を伝えた上で、当局はどのように判断し、対応できるのかを考えていきたいと思います。

それと、今、教育長の意見として南部小学校の話が出てきました。我々としては大賛成ですが、当局は一回持ち帰って検討いただき、次の段階でどのように対応するかを判断されたらいかがでしょうか。

(委員長)

それでは、今のお話のような形で、事務局でまとめていただきたいと思います。それから、南部校区でご意見を確認していただきたいということでお願いしたいと思います。

5 その他

(事務局)

小学校の数は1校にするということで確認いただきましたので、次回の第6回の検討委員会では、南部小学校の統合時期についての取りまとめのほか、使用する校舎についての検討に入ります。

つきましては、8月末までに使用する校舎の違いについてまとめた資料を、事務局から委員の皆様に送付します。その資料をもとに、各団体で使用する校舎についてのご意見を取りまとめていただき、第6回の検討委員会でご報告いただく予定です。ただ、すでに使用する校舎についてのご意見をまとめられた団体もいらっしゃいますので、その場合は、特段、再度話し合っていただくことは不要です。

(委員長)

それでは、次回の第6回検討委員会では、小学校・中学校の使用する校舎の検討に入ることでお願いします。検討資料も、後日、各委員に送付されますので、それをもとに、それぞれの団体でご意見を持ってきていただきたいと思います。

6 副委員長挨拶

(副委員長)

峠を越え、山をひとつ超えたという感触を受けております。次の段階では、校舎をどこに持っていくかという話になります。これには、おそらく色々な考えがあると思いますが、議論に感情的な齟齬が出てくると禍根が残ります。将来に禍根を残さないよう、しっかりと位置付けで議論することが、今現在生きてる我々の責任だろうと思います。各団体に戻られてからも、しっかりと議論していただきたいと思っていますので、よろしくお願ひします。

7 次回委員会の日程

(事務局)

次回の第6回検討委員会は令和7年10月中を予定しております。

◆使用する校舎に関する参考資料

※事前送付資料

1. 校舎の配置について

配置パターン	ポイント
①両方とも片方の校区に集約配置	<ul style="list-style-type: none"> 学校を一つの拠点に集約することで、小中学校間での連携・協働が取りやすくなる。また、今後の保育園・幼稚園・小学校・中学校との連携も見据えられるほか、学校管理の効率化にもつながる。 通学ルートがほとんど変わらず、小学校、中学校の子どもが一緒に通学できる。
②福光中学校区に1校・吉江中学校区に1校配置	<ul style="list-style-type: none"> 9年間で、旧福光中学校区と旧吉江中学校区の両方で学ぶ機会を得られる。 小学校の近くにある使用しなくなった校舎を、児童館や放課後児童クラブとして活用できる可能性がある。

2. 各学校の違い

① 小学校	福光中部小学校	福光東部小学校	備考
①校舎の規模・構造	<ul style="list-style-type: none"> 学年4クラス想定の校舎 3階建て 杭打ち…有 支持基盤までの深さ…約3.5m 	<ul style="list-style-type: none"> 学年3クラス想定の校舎 2階建て 杭打ち…有 支持基盤までの深さ…約3.5m 	<ul style="list-style-type: none"> いずれの学校も鉄筋コンクリート造 支持地盤…建築物を支える地盤のこと。約3.5mの深さでN値が50となっている。（N値…地盤の強さを示す指標）
②主な棟の建設年度 ※かっこ内は経過年数	校舎 1976年（49年） 体育館 1978年（47年）	1981年（44年） 1981年（44年）	いずれの学校も旧耐震基準での設置だが、耐震補強実施済（④耐震性を参照）
③大規模改修完了年度 ※かっこ内は経過年数	校舎 2020年（5年） 体育館 2020年（5年）	2013年（12年） 2011年（14年）	中部小学校は設備改修、東部小学校は耐震補強と設備改修を実施
④耐震性	Is値：0.71 1998年耐震補強実施済	Is値：0.77 2013年耐震補強実施済	Is値…耐震診断により、建物の耐震性能を示す指標。Is値0.6以上で耐震性能を満たすとされているが、学校では0.7以上に補強するように求められている。
⑤教室数 ※現時点での教室の配置案は、補足資料の各校平面図P9~P12を参照	【通常学級】 いずれの学校も、多目的教室等を活用することで想定される必要教室数（17教室）を確保	【通常学級】 R10年度の統合小学校の通常学級数（見込み）…合計17学級 (内訳) 1年生：2学級 2年生～6年生：各3学級 ※補足資料 P1のとおり	
⑥放課後児童クラブ（統合小学校内に設置する場合）	【特別支援学級】 いずれの学校も、多目的教室等を活用することで想定される必要教室数（6教室）を確保	【特別支援学級】 R10年度の統合小学校の特別支援学級数（見通し）…合計6学級 ※補足資料 P2のとおり	
⑦校舎・グラウンド・体育館の面積	<ul style="list-style-type: none"> 校舎：6,760m² グラウンド：15,163m² 体育館：995m² 	<ul style="list-style-type: none"> 校舎：6,325m² グラウンド：11,084m² 体育館：929m² 	校舎は延床面積
⑧小学校からおおむね2km圏内の場所=歩行通学圏の範囲	【現東部校区】 オヤマ自動車、吉江中学校、ひまわり団地、随順寺	【現中部校区】 麵屋ひろまる、福光どんぐり保育園、マツモトキヨシ福光店、中谷工機	・補足資料 P5を参照（「地図で見る統計(jSTAT MAP)」から引用）
⑨各校区の0～5歳児の人口 (R7.4.1時点)	【現中部校区】…163人 <ul style="list-style-type: none"> 福光地区：73人 石黒地区：52人 広瀬地区：37人 南蟹谷地区：1人 	【現東部校区】…167人 <ul style="list-style-type: none"> 吉江地区…104人 北山田地区…45人 山田地区…18人 	

② 中学校		福光中学校	吉江中学校	備考	
①校舎の規模・構造		<ul style="list-style-type: none"> 学年5クラス想定の校舎 3階建て 杭打ち…無 支持基盤までの深さ…約3.5m 	<ul style="list-style-type: none"> 学年最大4クラス想定の校舎 3階建て 杭打ち…無 支持基盤までの深さ…約3.5m 	<ul style="list-style-type: none"> いずれの学校も鉄筋コンクリート造 支持地盤…建築物を支える地盤のこと。約3.5mの深さでN値が50となっている。（N値…地盤の強さを示す指標） 	
②主な棟の建設年度 ※かっこ内は経過年数	校舎	1992年（33年）	1998年（27年）	いずれの学校も新耐震基準での設置	
	体育館	1993年（32年）	1998年（27年）		
③大規模改修完了年度	校舎	いずれの学校も未完了			
	体育館	いずれの学校も未完了			
④教室数 ※現時点での教室の配置案は、補足資料の各校平面図P13~P16を参照	<p>【通常学級】 いずれの学校も、多目的教室等を活用することで想定される必要教室数（10教室）を確保</p>		<p>R10年度の統合中学校の通常学級数（見込み）…合計10学級 (内訳) 1年生、2年生：各3学級 3年生：4学級 ※補足資料 P1のとおり</p>		
	<p>【特別支援学級】 いずれの学校も、多目的教室等を活用することで想定される必要教室数（5教室）を確保</p>		<p>R10年度の統合小学校の特別支援学級数（見通し）…合計5学級 ※補足資料 P2のとおり</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> 校舎：7,133m² グラウンド：16,631m² 体育館：1,414m² 		<ul style="list-style-type: none"> 校舎：5,469m² グラウンド：15,111m² 体育館：1,421m² 	<ul style="list-style-type: none"> 校舎は延床面積 体育館は、2階アリーナ部分の面積 	
⑤校舎・グラウンド・体育館の面積	約1.5km	約0.4km	<ul style="list-style-type: none"> 特認校制度で通学することを考慮した比較項目 いずれの距離も、主要道路を利用した場合のもの 		
⑥JR福光駅からの距離					

※事前送付資料

補足資料

南砺市立学校 学級数の見通し（福光地域）※通常学級のみ

令和7年4月1日現在（人）

塗りつぶしなしが2クラス

緑色塗りつぶしが3クラス

橙色りつぶしが4クラス

学級編制基準 (富山県)	小学校 35名定員
	中学校 35名定員(予定)

※中学校は、R10年度以降は1クラス35名が有力です。

福光地域全体

※通常学級の人数のみ

年齢	0才	1才	2才	3才	4才	5才	6才	7才	8才	9才	10才	11才	12才	13才	14才
学年	-	-	-	年少	年中	年長	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
福光	17	23	30	30	45	38	54	45	55	61	50	70	52	60	52
吉江	28	31	44	31	31	33	27	36	41	40	38	36	53	46	56
R 7	45	54	74	61	76	71	81	81	96	101	88	106	105	106	108
R 8		45	54	74	61	76	71	81	81	96	101	88	106	105	106
R 9			45	54	74	61	76	71	81	81	96	101	88	106	105
R 10				45	54	74	61	76	71	81	81	96	101	88	106
R 11					45	54	74	61	76	71	81	81	96	101	88
R 12						45	54	74	61	76	71	81	81	96	101
R 13							45	54	74	61	76	71	81	81	96
R 14								45	54	74	61	76	71	81	81
R 15									45	54	74	61	76	71	81
R 16										45	54	74	61	76	71
R 17											45	54	74	61	76
R 18												45	54	74	61

◆特別支援学級数の見込み（令和7年4月1日時点）

福光地域 特別支援学級（知的）編制基準…障害の種別ごとに、8人で1学級

年齢	6才	7才	8才	9才	10才	11才	12才	13才	14才
学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
R 7	6	3	3	4	5	6	2	1	1
R 8		6	3	3	4	5	6	2	1
R 9			6	3	3	4	5	6	2
R 10				6	3	3	4	5	6
R 11					6	3	3	4	5
R 12						6	3	3	4
R 13							6	3	3
R 14								6	3
R 15									6

R10年度の学級数…小学校2～3、中学校2

福光地域 特別支援学級（情緒）編制基準…障害の種別ごとに、8人で1学級

年齢	6才	7才	8才	9才	10才	11才	12才	13才	14才
学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
R 7	2	2	7	5	5	7	3	3	2
R 8		2	2	7	5	5	7	3	3
R 9			2	2	7	5	5	7	3
R 10				2	2	7	5	5	7
R 11					2	2	7	5	5
R 12						2	2	7	5
R 13							2	2	7
R 14								2	2
R 15									2

R10年度の学級数…小学校2～3、中学校3

放課後児童クラブについて

総合政策部こども課

1 放課後児童クラブとは

児童福祉法に基づき、保護者が仕事で昼間家庭にいない小学生（＝放課後児童）に対し、授業の終了後等に適切な遊びや生活の場を与えて、家庭、地域等との連携の下、発達段階に応じた主体的な遊びや生活が可能となるよう、当該児童の自主性、社会性及び創造性の向上、基本的な生活習慣の確立等を図り、その健全な育成を図るもの。

<クラブ設置の基準（抜粋）>

専用区画（遊び・生活・静養）の面積 = 児童一人につき1.65m²以上 、 クラブの規模 = 1クラブあたりの児童数が概ね40人以下

支援員の配置 = 2人以上 、 開設日数 = 年間250日以上（平日 = 3時間以上、休日 = 8時間以上）など

2 福光地域における放課後児童クラブの現状

No.	クラブ名	設置場所	開設日数 (R6実績)	定員	登録児童数 (R7.4.1現在)	専用区画 (m ²)	児童一人当たり (m ² /人)
1	きっずらんどクラブ	福光児童館	252日	概ね40名	34名	84.00	2.10
2	福光中部っ子クラブ	福光中部小学校（1階）	252日	概ね40名	38名	118.00	2.95
3	福光東部っ子クラブ	福光東部小学校（1階）	250日	概ね40名	42名	108.00	2.70
4	東部げんきっ子クラブ		250日	概ね40名	27名	166.40	4.16
5	福光南部っ子クラブ	福光南部小学校（1階）	251日	概ね40名	43名	103.23	2.58
				概ね200名	184名	579.63	2.90

※ 200名の児童を受け入れる場合、5クラブで330.00m²以上の専用区画（遊び・生活・空間の場。※玄関・トイレ等を除く）が必要となります。

<参考：他地域のクラブの状況>

6	さくらっ子クラブ	城端児童館	293日	概ね40名	57名	90.24	2.26
7	井波子どもホーム	井波児童館	291日	概ね40名	47名	79.49	1.99
8	アルカスクラブ	福野児童センター	279日	概ね40名	52名	86.42	2.16
9	アルカスのびのびひろば	B&G海洋センター	257日	概ね40名	51名	58.08	1.45
10	福野にこにこクラブ	福野小学校（1階）	(R7.4開設)	概ね40名	56名	236.25	5.91
11	あおば放課後児童クラブ	福野青葉幼稚園	(R7.7開設)	概ね30名	29名	90.60	3.02
				概ね430名	476名	1220.705	2.84

【参考】放課後児童クラブの登録児童数

放課後児童クラブ登録者数 (R7.4.1現在)

(単位:人)

クラブ名	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
1 さくらっこクラブ	18	17	4	12	4	2	57
2 井波子どもホーム	12	13	7	7	7	1	47
3 アルカスクラブ	5	24	20	3	0	0	52
4 アルカスのびのびひろば	0	0	4	23	19	5	51
5 福野にこにこクラブ	35	1	0	6	0	14	56
6 あおば放課後児童クラブ	7	15	6	1	0	0	29
7 きっずらんどクラブ	0	10	15	7	2	0	34
8 福光中部っ子クラブ	23	15	0	0	0	0	38
9 福光東部っ子クラブ	20	0	22	0	0	0	42
10 東部げんきっ子クラブ	0	18	0	7	2	0	27
11 福光南部っ子クラブ	6	8	7	9	5	8	43
合計	126	121	85	75	39	30	476
(再掲) 福光地域	49	51	44	23	9	8	184

登録児童数の推移（5年間）

(単位:人)

地域名	クラブ登録児童数	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	(児童数に占める登録者の割合)
		総児童数(1~6年)	総児童数(1~6年)	総児童数(1~6年)	総児童数(1~6年)	総児童数(1~6年)	
1 城端地域	クラブ登録児童数	56	53	63	52	55	22.4%
	総児童数(1~6年)	336	322	305	287	265	
2 井波地域	クラブ登録児童数	47	52	57	41	47	15.4%
	総児童数(1~6年)	298	305	313	292	294	
3 福野地域	クラブ登録児童数	156	159	166	150	168	30.6%
	総児童数(1~6年)	648	635	640	627	621	
4 福光地域	クラブ登録児童数	183	173	161	154	182	30.2%
	総児童数(1~6年)	690	659	657	651	629	
合 計		442	437	447	397	452	
		1,972	1,921	1,915	1,857	1,809	
(児童数に占める登録者の割合)		22.4%	22.7%	23.3%	21.4%	25.0%	26.7%

◆徒歩通学圏の範囲

地図で見る統計 (jSTAT MAP) から

赤枠内…現・福光中部小学校区のうち、福光東部小学校から2km圏内の場所

青枠内…現・福光東部小学校区のうち、福光中部小学校から2km圏内の場所



各学校平面図

(現時点での配置案)

福光中部小学校 1 階

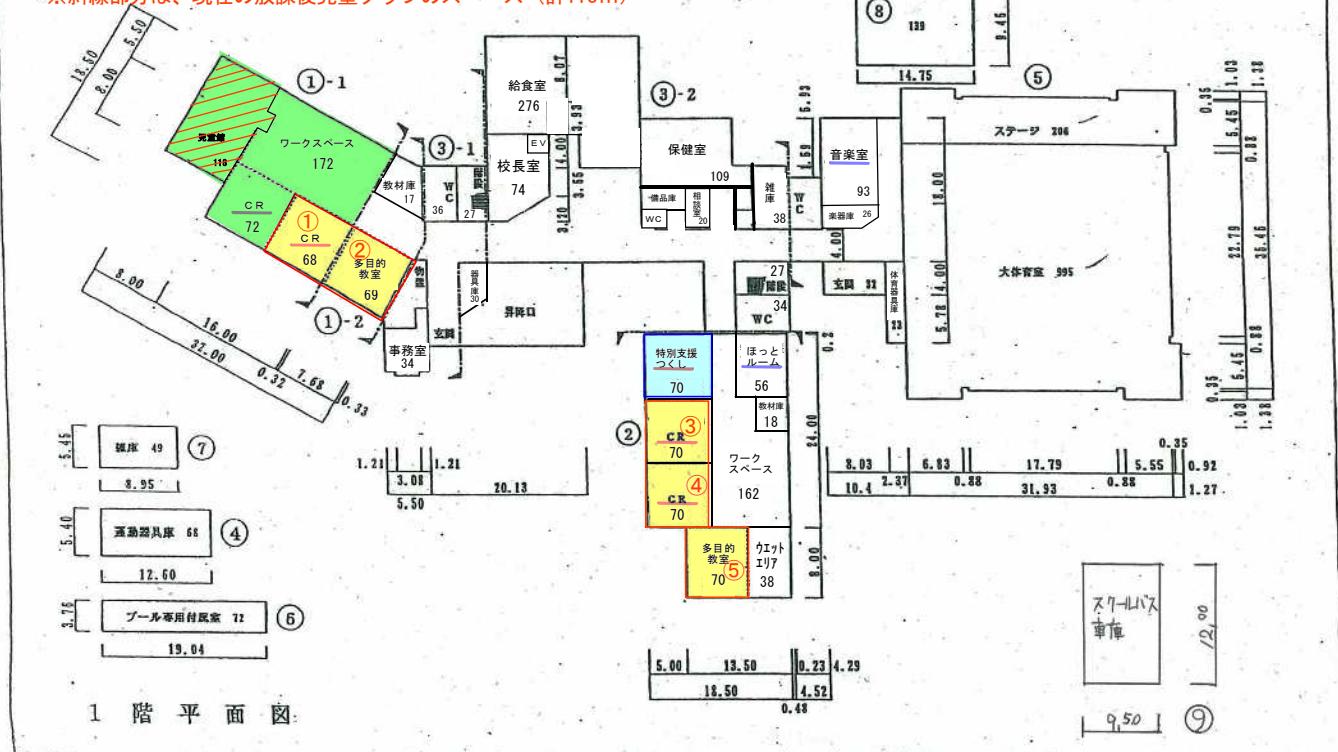
黄色…通常学級で利用を想定

青色…特別支援学級で利用を想定

緑色…放課後児童クラブのスペース（計362m²）

(校内に放課後児童クラブを設置する場合)

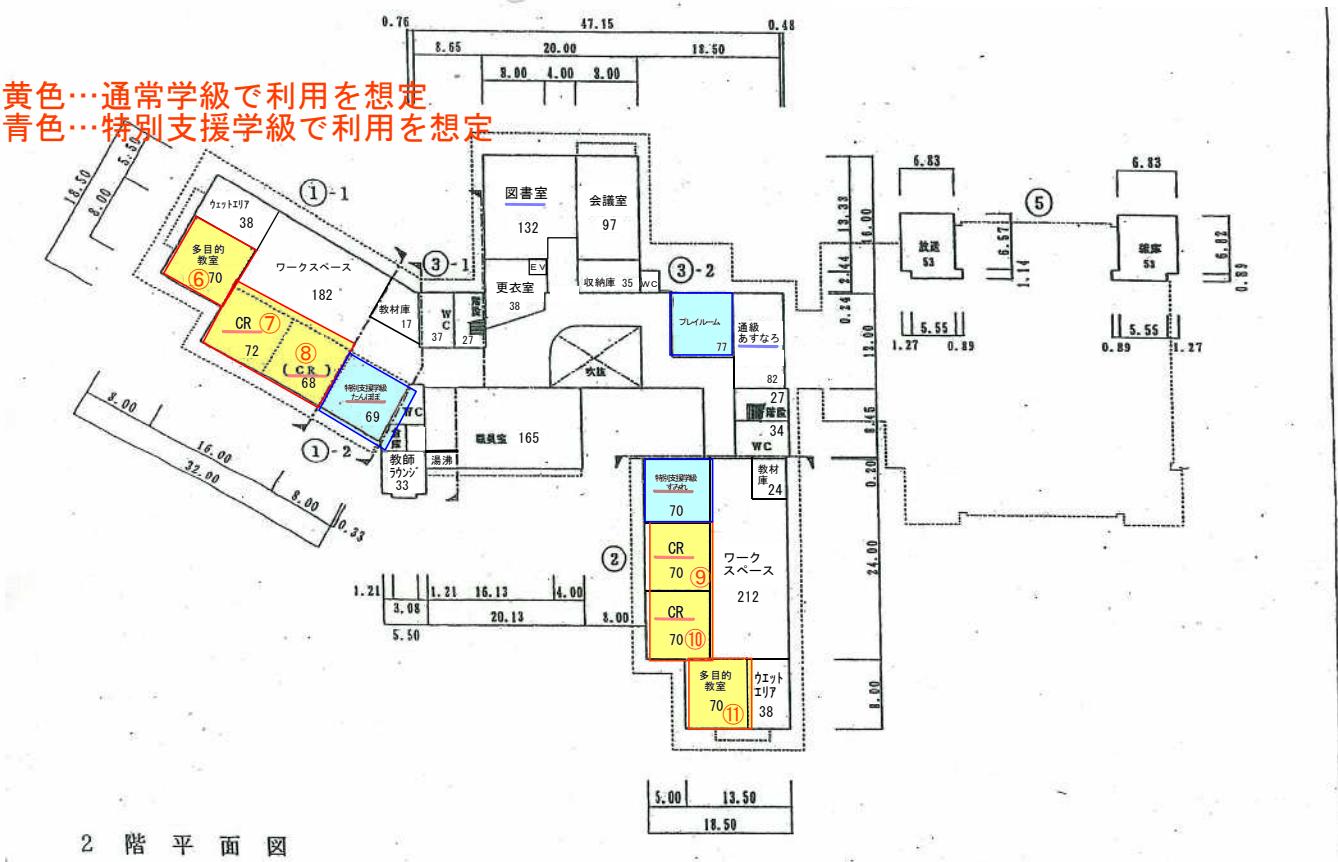
※斜線部分は、現在の放課後児童クラブのスペース（計118m²）



文 部 省

福光中部小学校 2 階

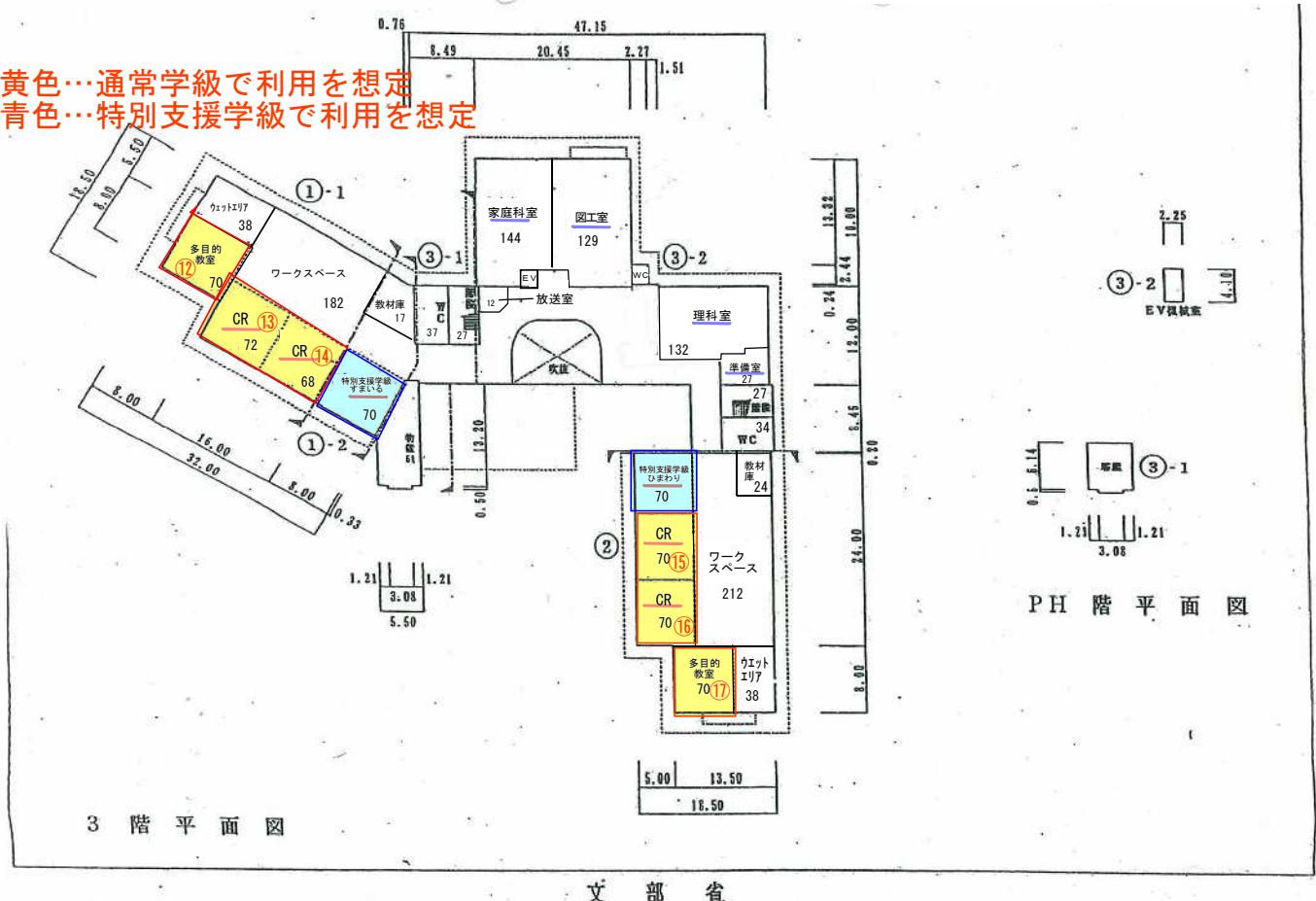
黄色…通常学級で利用を想定
青色…特別支援学級で利用を想定



2 階 平 面 図

文 部 省

黄色…通常学級で利用を想定
青色…特別支援学級で利用を想定



文 部 省

福光中部小学校 配置図

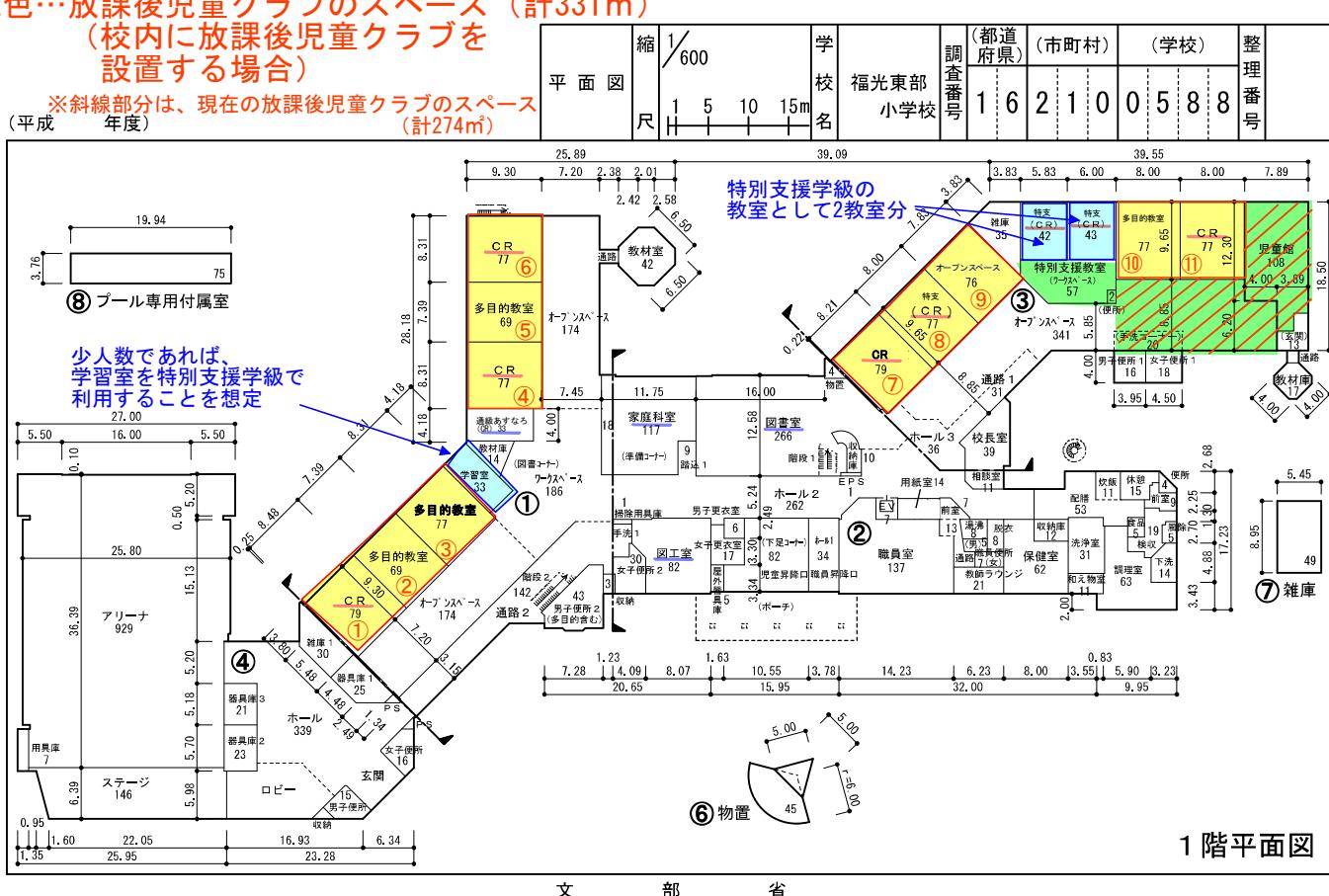
文 部 省

黄色…通常学級での利用を想定
青色…特別支援学級での利用を想定
緑色…放課後児童クラブのスペース
(校内に放課後児童クラブを設置する場合)

※斜線部分は、現在の放課後児童クラブのスペース
(計274m²)

(平成
年度)

福光東部小学校 1階

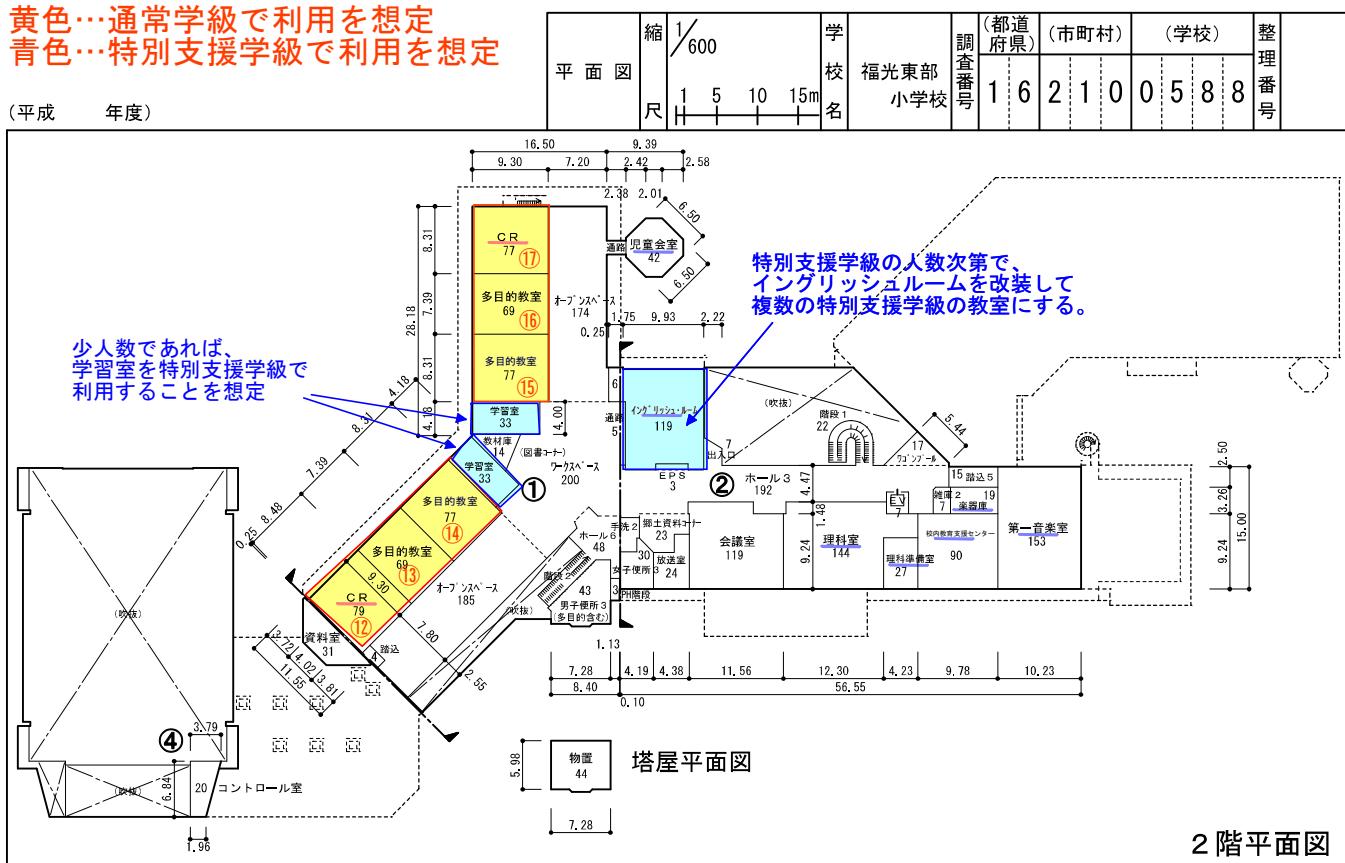


1階平面図

黄色…通常学級で利用を想定
青色…特別支援学級で利用を想定

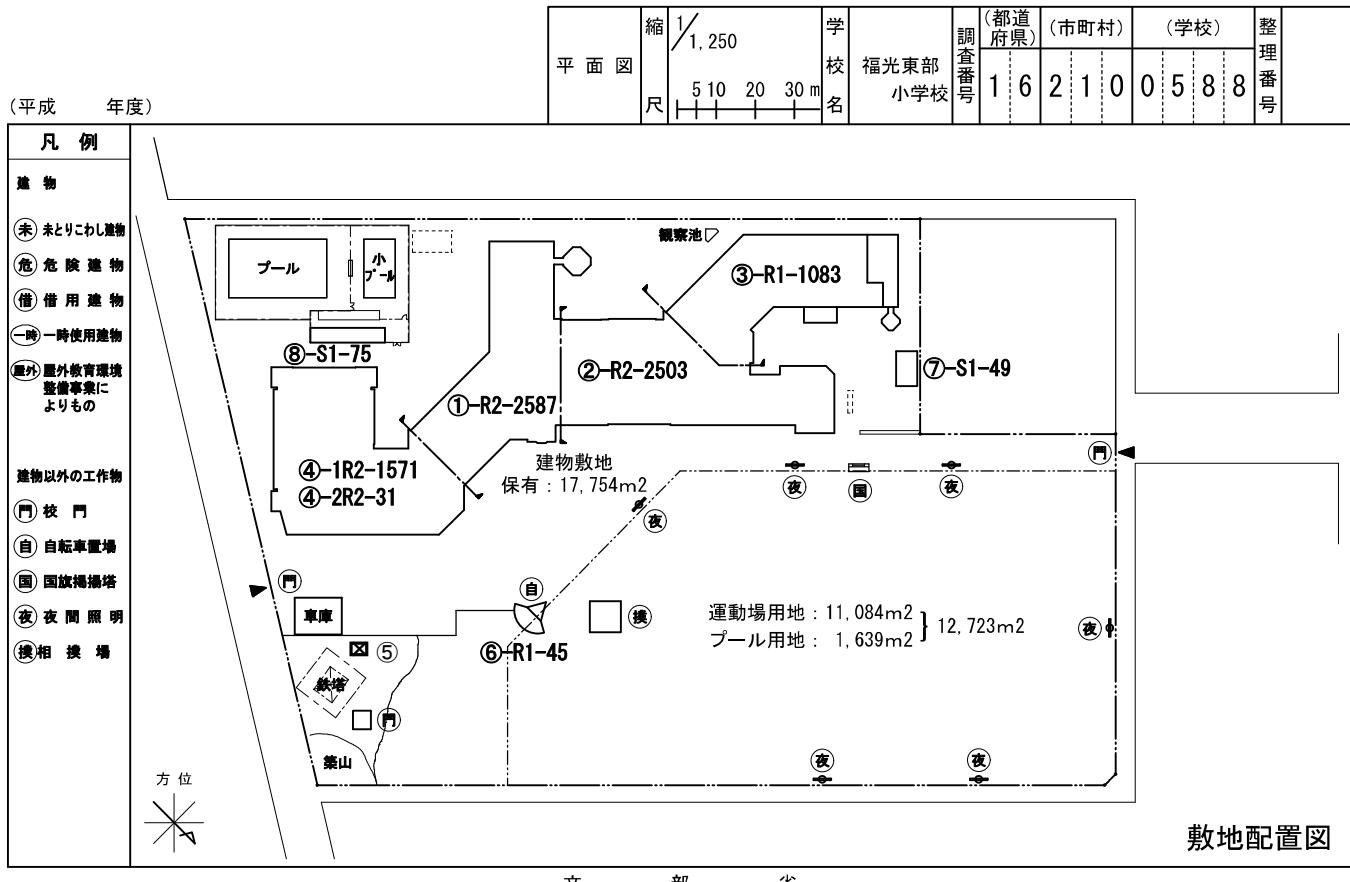
(平成
年度)

福光東部小学校 2階



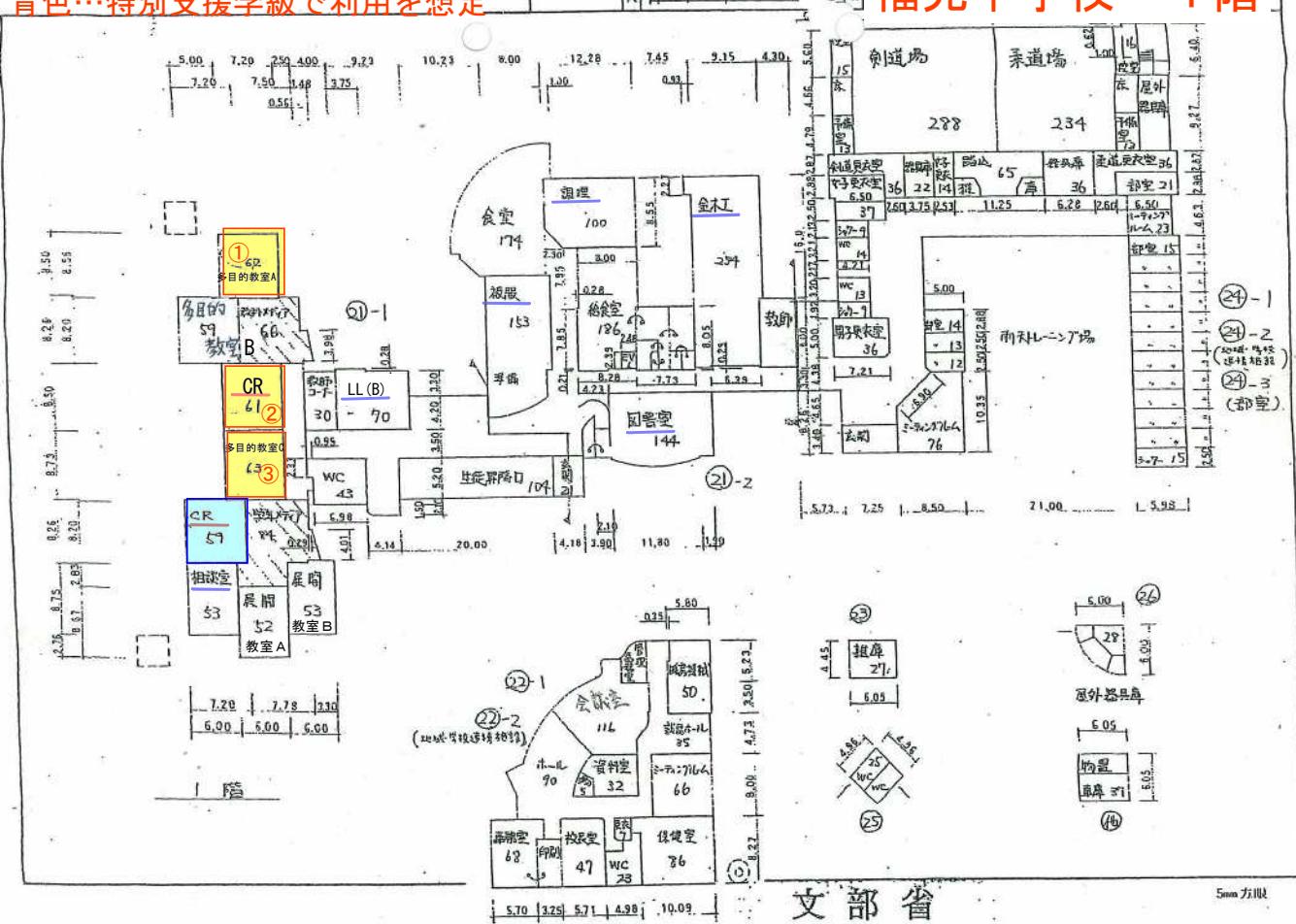
2階平面図

福光東部小学校 配置図



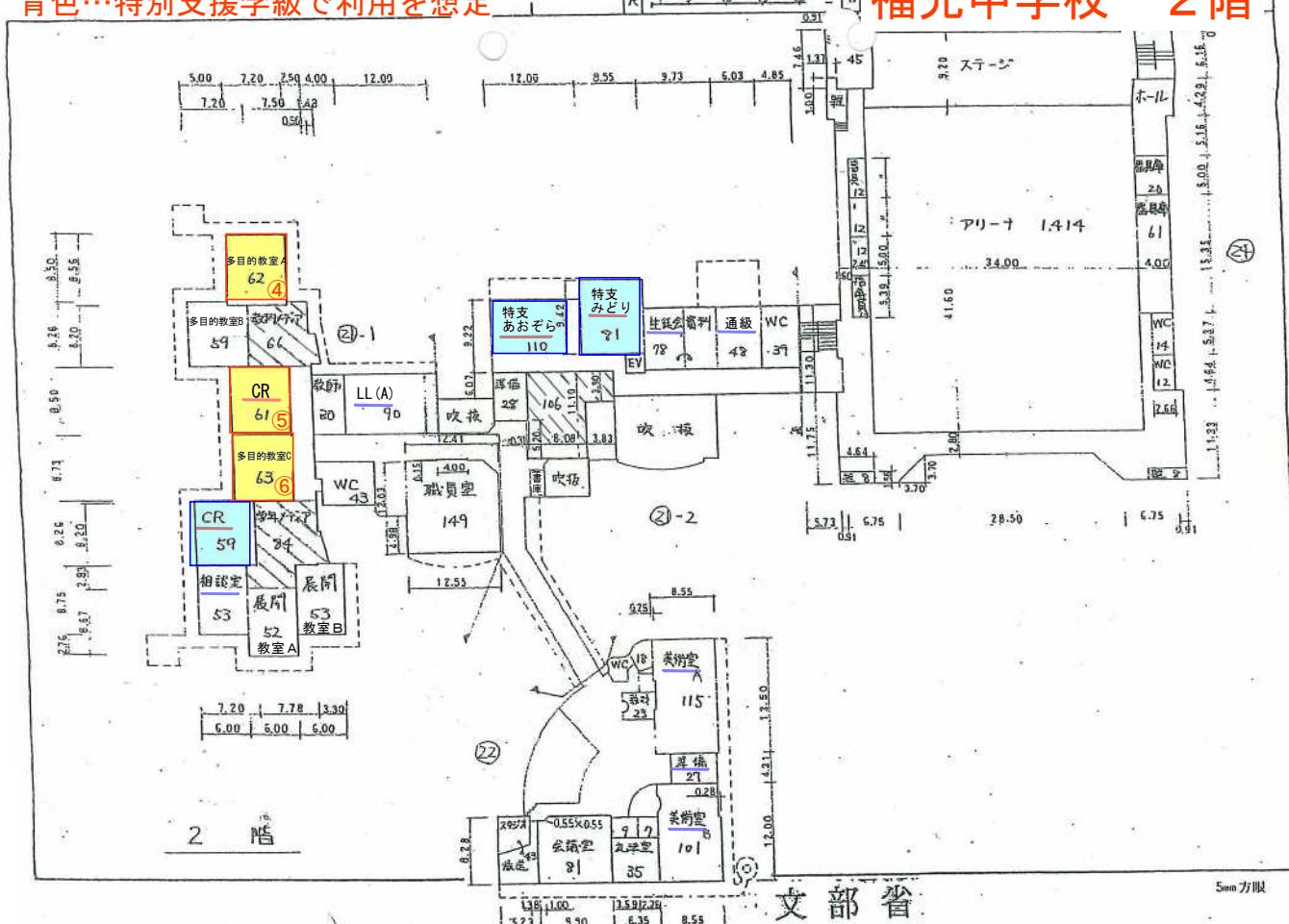
黄色…通常学級で利用を想定
青色…特別支援学級で利用を想定

福光中学校 1階



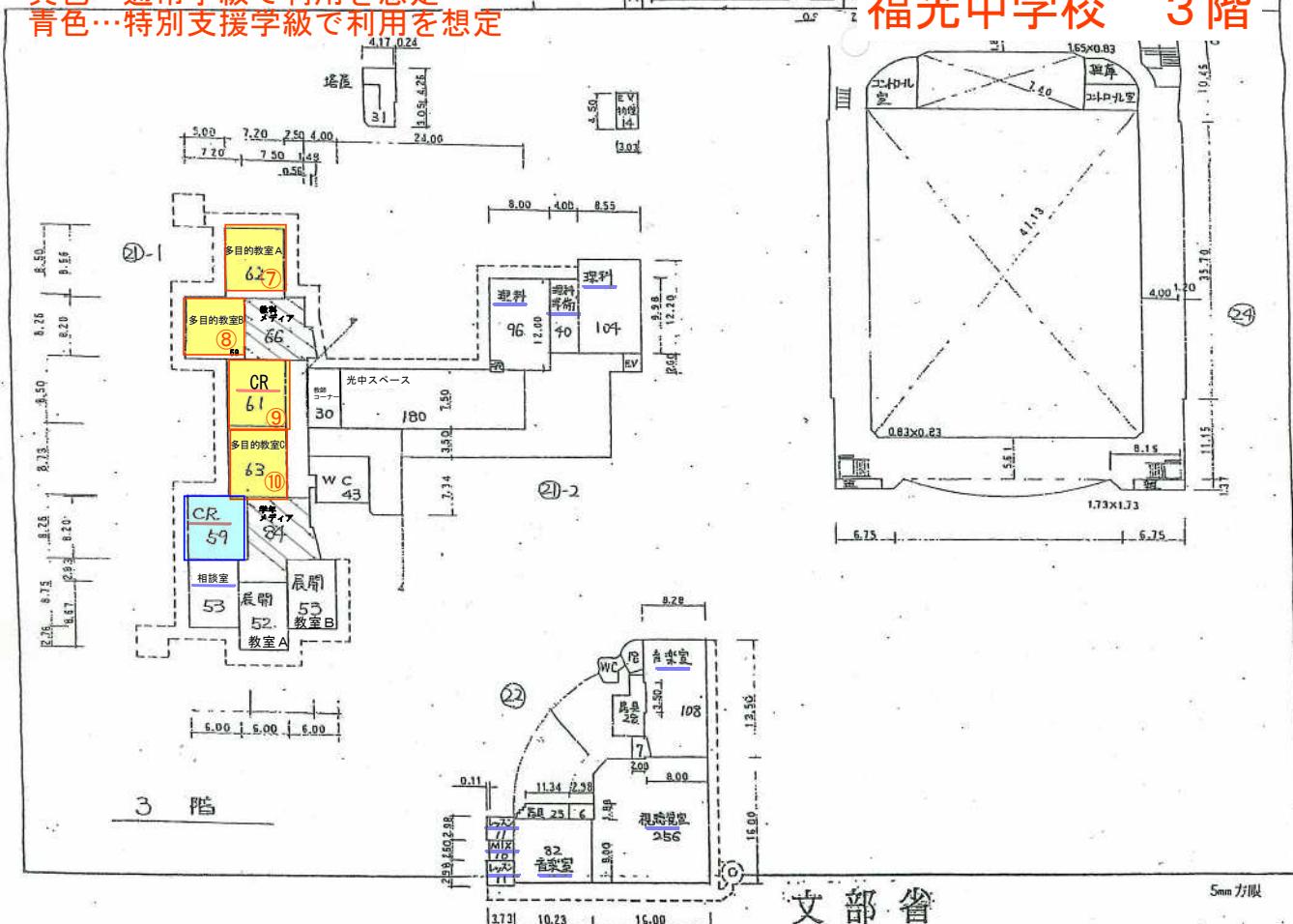
黄色…通常学級で利用を想定
青色…特別支援学級で利用を想定

福光中学校 2階



黄色…通常学級で利用を想定
青色…特別支援学級で利用を想定

福光中学校 3階

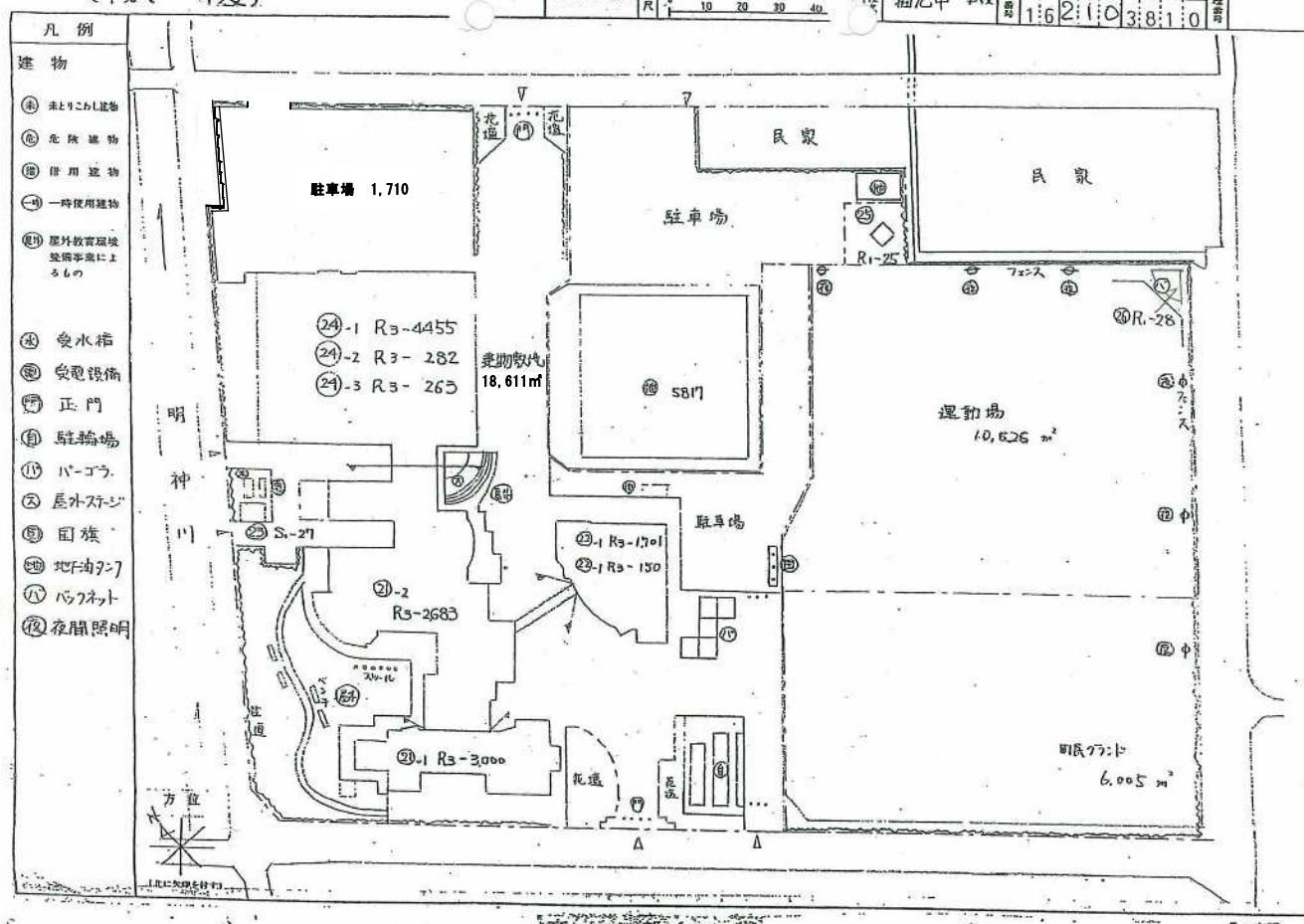


(平成 年度)

施設の配置図

福光中学校

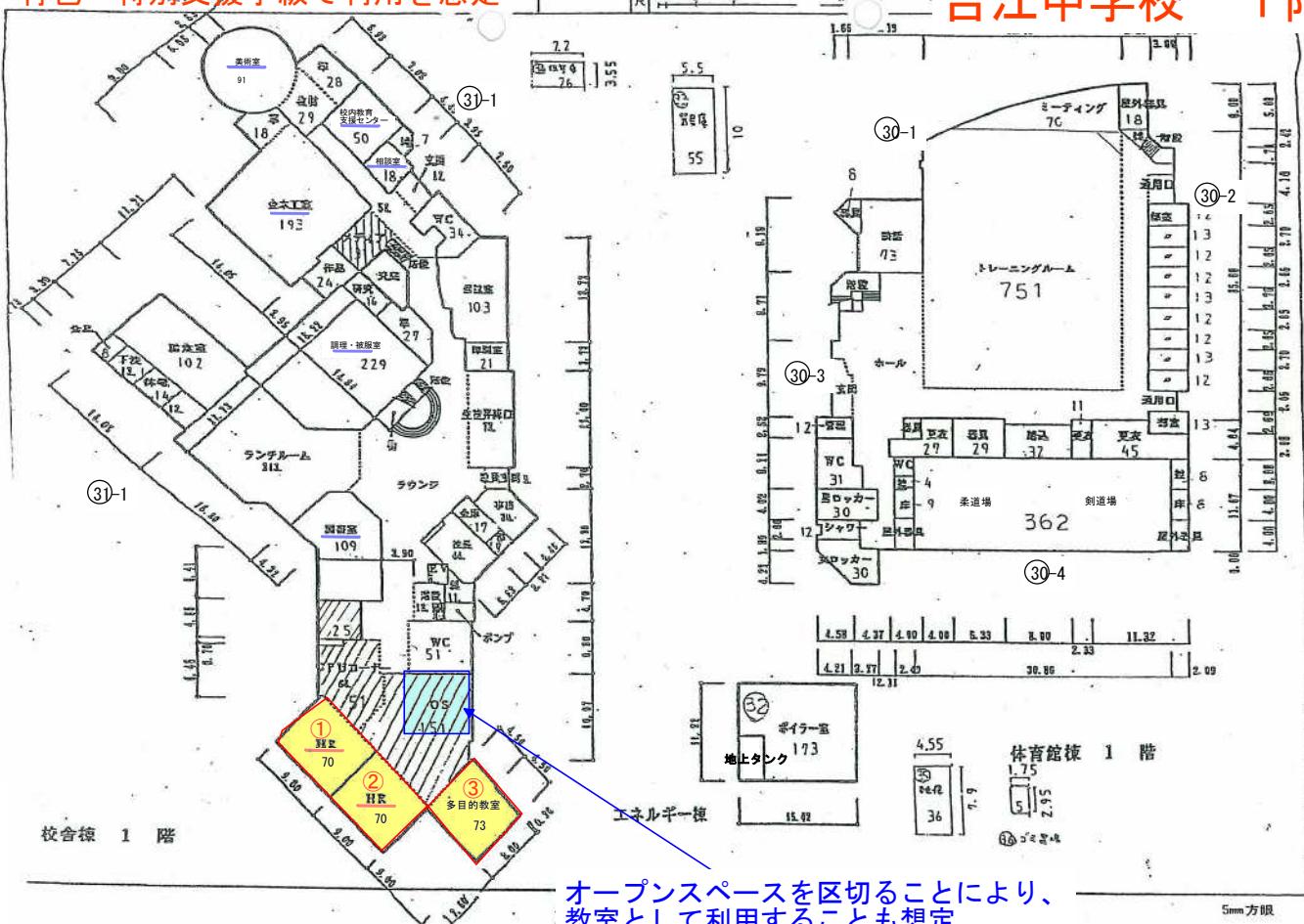
面積(㎡) 1000 1000 1000 1000 1000



黄色…通常学級で利用を想定
青色…特別支援学級で利用を想定

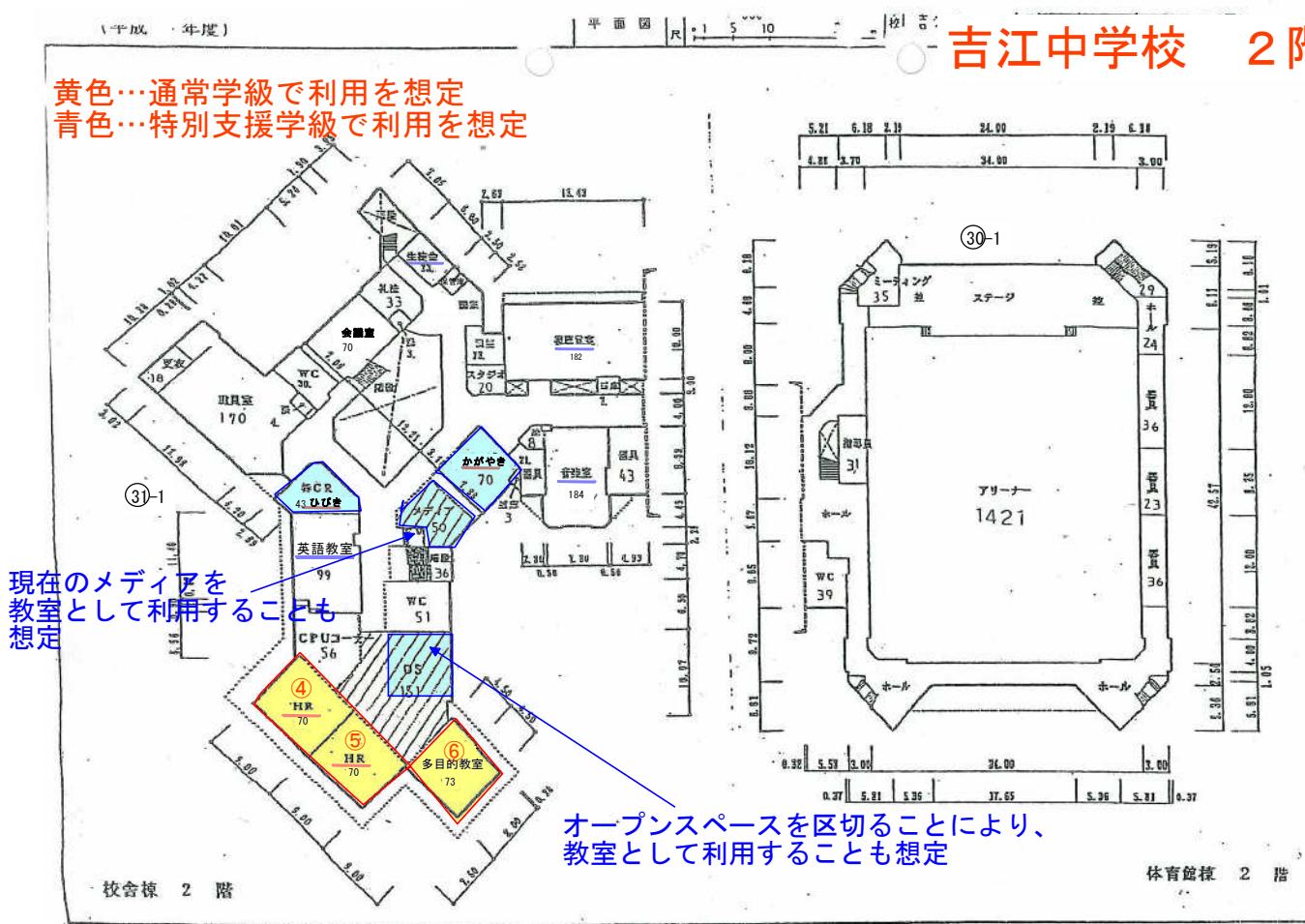
吉江中学校

1階

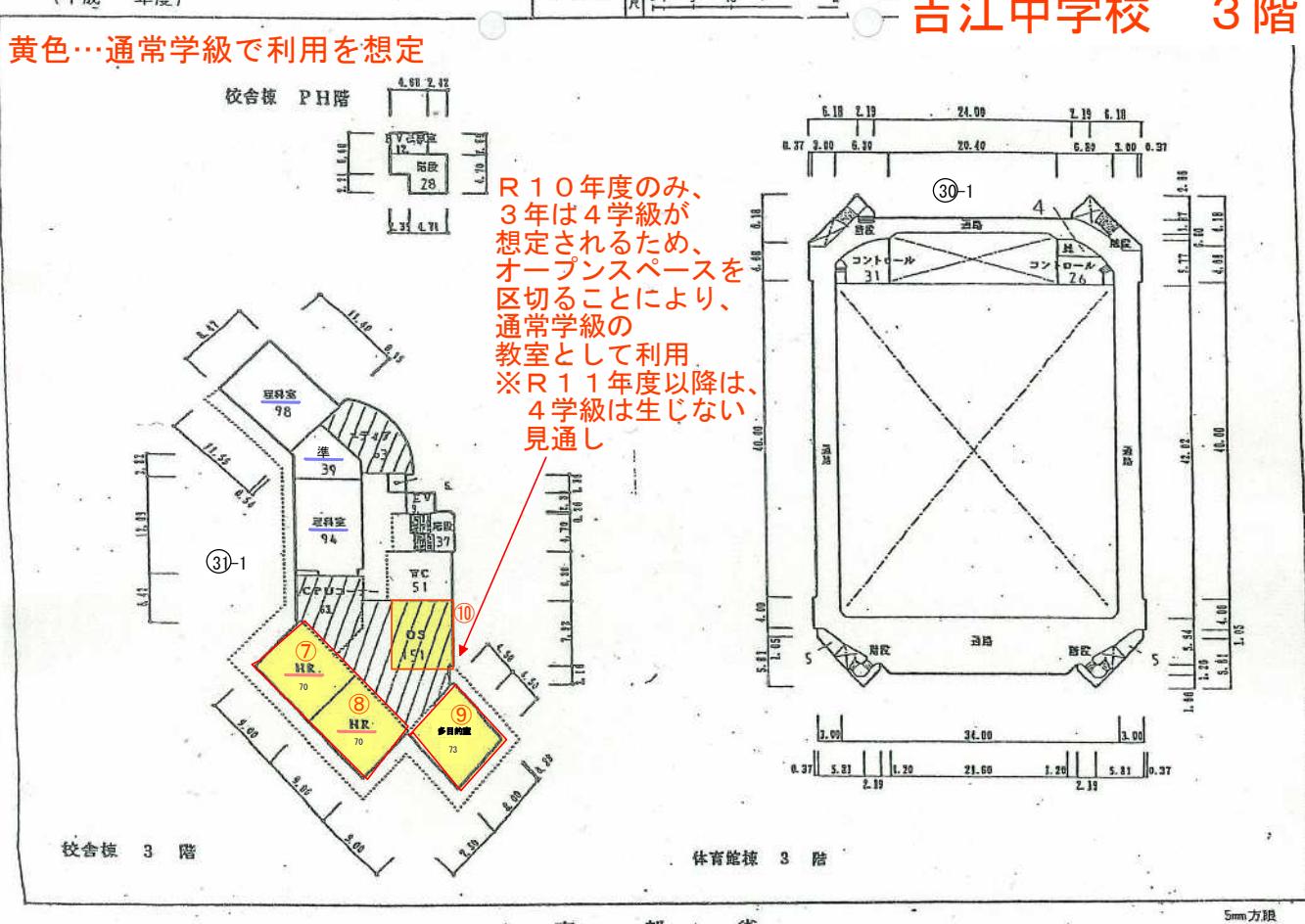


吉江中学校

2階



黄色…通常学級で利用を想定



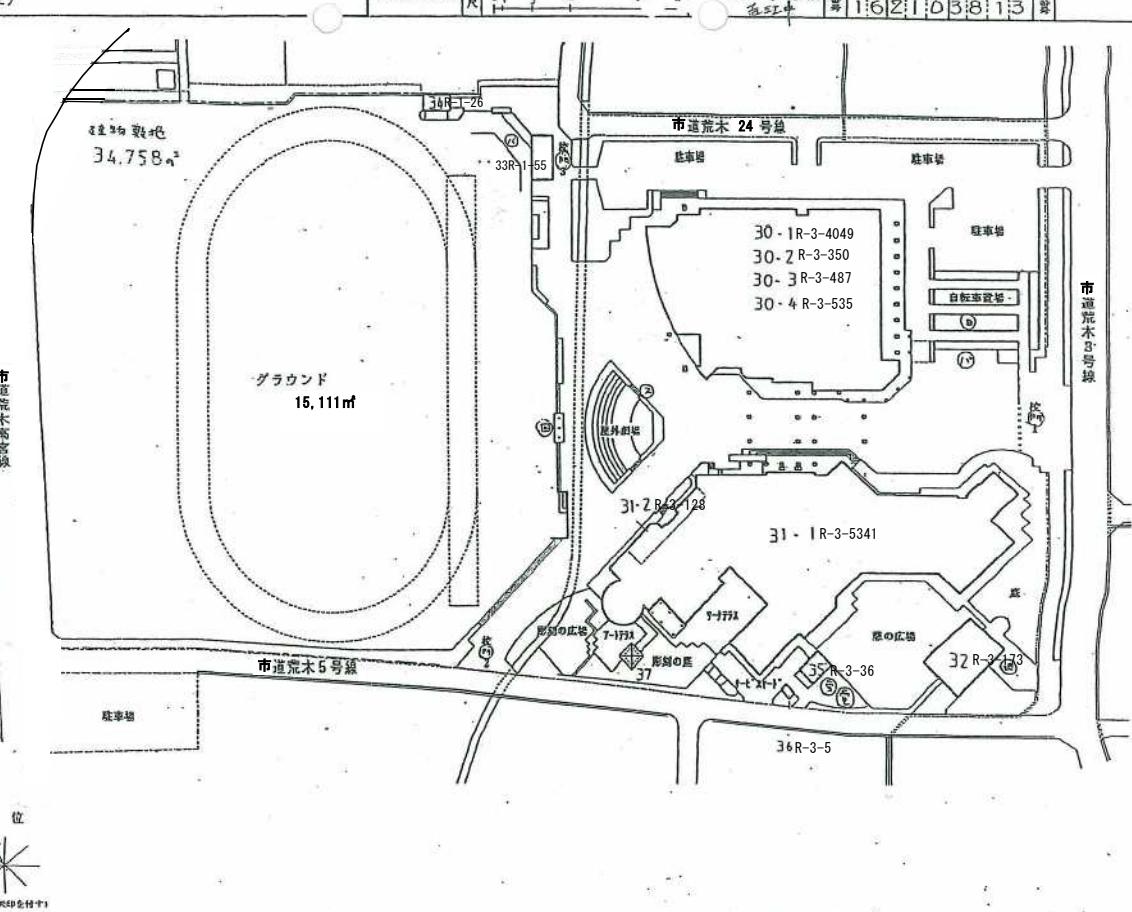
文 部 省

5mm方眼

凡

- 未とりこむし薬物
 - 危 危険 薬物
 - ③ 側用 薬物
 - 一時 一時使用薬物
 - 医療 屋外教育環境
整備事業によ
るもの

- (1) 楽水亭
 (2) 遊龍閣
 (3) 喜樂亭
 (4) 玉環亭
 (5) 舞鳳亭
 (6) 雨暉亭
 (7) 雨暉亭
 (8) 雨暉亭
 (9) 雨暉亭
 (10) 雨暉亭
 (11) 雨暉亭
 (12) 雨暉亭
 (13) 雨暉亭
 (14) 雨暉亭
 (15) 雨暉亭
 (16) 雨暉亭
 (17) 雨暉亭
 (18) 雨暉亭
 (19) 雨暉亭



文 部 省

5mm方眼

◆使用する校舎に関する参考資料（追加資料）

追加資料

1 小学校

		福光中部小学校		福光東部小学校		備考		
		参考評価						
①校舎の規模		学年4クラス想定の校舎		学年3クラス想定の校舎		どちらも必要な教室数は確保できる見通しだが、福光中部小学校のほうが余裕教室数を確保できる見込み。		
②建物・設備	安全面	3階建て		2階建て		有事の際（例：火災等）を考慮すると、低い階の建物のほうが避難しやすく安全である。		
	維持管理面					一般的に、低層建物やグラウンドの面積が小さいほうが維持管理費が抑えられる。		
③大規模改修完了年度	校舎	・校舎：6,760m ² ・グラウンド：15,163m ² ・体育館：995m ²		・校舎：6,325m ² ・グラウンド：11,084m ² ・体育館：929m ²		福光中部小学校のほうが広い。 ※校舎は延床面積		
	体育館	2020年（5年経過）		2013年（12年経過）		福光中部小学校のほうが大規模改修から日が浅い。 ※福光東部小学校は、耐震補強と同時に大規模改修を実施。福光中部小学校は、耐震補強を早期に行い、その後に大規模改修を実施		
	地震	耐震性	Is値：0.71 ※1998年耐震補強実施済		Is値：0.77 ※2013年耐震補強実施済	どちらも最低限の基準を満たしているが、福光東部小学校のほうが耐震性能が高い。 ※Is値…耐震診断により、建物の耐震性能を示す指標。Is値0.6以上で耐震性能を満たすとされているが、学校では0.7以上に補強するように求められている。		
④災害	法林寺断層からの距離		より近い位置にある。			一般的に、断層から距離があるほうが地震被害は低く抑えられると考えられる。		
	風害	医王山からの距離	より近い位置にある。		より遠い位置にある。		医王山からの風で、学校のグラウンドの砂が周辺に飛散することを想定	
	水害		周辺は浸水範囲外 (実際に浸水が発生する場合もある)		小学校周辺の浸水深が0~0.5mが想定されている。		小矢部川が大雨によって増水し、堤防が壊れた場合の浸水予測結果に基づくもの ※福光地域では、1953年に小矢部川の堤防が決壊したことがあるが、それ以降は確認されていない。	
⑤交通環境	利便性	学校に面している道路の 交通量は比較的少ない。		○	交通量が多い道路に 面している。		主要な道路に面しており、アクセスしやすい。	
	安全面				学校周辺の交通量が比較的少ない。			
⑥各校区の0~5歳児の人口 (R7.4.1時点)		【現中部校区】…163人 ・福光地区：73人 ・石黒地区：52人 ・広瀬地区：37人 ・南蟹谷地区：1人		【現東部校区】…167人 ・吉江地区…104人 ・北山田地区…45人 ・山田地区…18人		東部校区のうち、吉江地区在住の0~5歳児の人口が最も多い。		
【まとめ】		学校施設が大規模改修から間もなく、全体的に広い。教室数に余裕があるため、授業形態の工夫の幅が広がる。		2階建てでコンパクトであり、維持管理面や地震や火災などの有事の際ににおける安全性の確保の点で強みがある。				

2 中学校

		福光中学校	吉江中学校	備考
		参考評価		
①校舎の規模		学年5クラス想定の校舎	○	学年最大4クラス想定の校舎 どちらも必要な教室数は確保できる見通しだが、福光中学校のほうが余裕教室数を確保できる見込み。
②建物・設備	校舎・グラウンド・体育館の面積	・校舎：7,133m ² ・グラウンド：16,631m ² ・体育館：1,414m ²	○	・校舎：5,469m ² ・グラウンド：15,111m ² ・体育館：1,421m ² 総じて福光中学校のほうが広い。 ※校舎は延床面積、体育館は2階アリーナ部分の面積
	維持管理面		○	一般的に、建物の延床面積が小さいほうが、維持管理費が低く抑えられる。
③主な棟の建設年度	校舎	1992年（33年経過）	○	1998年（27年経過） 吉江中学校のほうが新しい。 ※いずれも大規模改修は未完了
	体育館	1993年（32年経過）	○	1998年（27年経過）
④災害	地震 法林寺断層からの距離	より近い位置にある。	○	より遠い位置にある。 一般的に、断層から距離があるほうが地震被害は低く抑えられると考えられる。
	風害 医王山からの距離	より近い位置にある。	○	より遠い位置にある。 医王山からの風で、学校のグラウンドの砂が周辺に飛散することを想定
	水害 洪水ハザードマップ	周辺は浸水範囲外 (実際に浸水が発生する場合もある)	○	グラウンドの浸水深は0~0.5mが想定されている。 小矢部川が大雨によって増水し、堤防が壊れた場合の浸水予測結果に基づくもの ※福光地域では、1953年に小矢部川の堤防が決壊したことがあるが、それ以降は確認されていない。
⑤交通環境	利便性	JR福光駅から距離がある。	○	JR福光駅から近い。 JR福光駅から近いなど、総じて吉江中学校のほうが公共交通によるアクセスが良い。
【まとめ】		学校施設が全体的に広い。教室数に余裕があるため、授業形態の工夫の幅が広がる。	公共交通でのアクセスが良く、特認校制度等の他地域からの通学が容易。学校施設はコンパクトであり、維持管理しやすい。	

統合小学校と統合中学校の使用する校舎に対する御意見

【別 紙】

団体名	統合小学校		統合中学校	
	福光中部小学校	福光東部小学校	福光中学校	吉江中学校
福光東部小学校教育後援会				
福光中部小学校教育後援会				
福光南部小学校教育後援会				
福光中部小学校 P T A				
福光南部小学校育成会				
福光東部小学校育友会				
福光中学校 P T A				
吉江中学校 P T A				
福光どんぐり保育園保護者会				
福光南部あおぞら保育園保護者会				
福光東部かがやき保育園保護者会				
福光青葉幼稚園保護者会				
喜志麻保育園父母の会				

統合小学校と統合中学校の使用する校舎に対する御意見

【別 紙】

団体名	統合小学校		統合中学校	
	福光中部小学校	福光東部小学校	福光中学校	吉江中学校
福光地域地域づくり協議会				
南砺市商工会福光支部青年部				
福光スポーツ協会				
南砺市文化協会福光支部				
南砺市主任児童委員				